

2021年3月期

決算説明会資料



2021年5月11日

ヤマハ株式会社

決算発表のポイント

決算概要

()数値は前年同期比

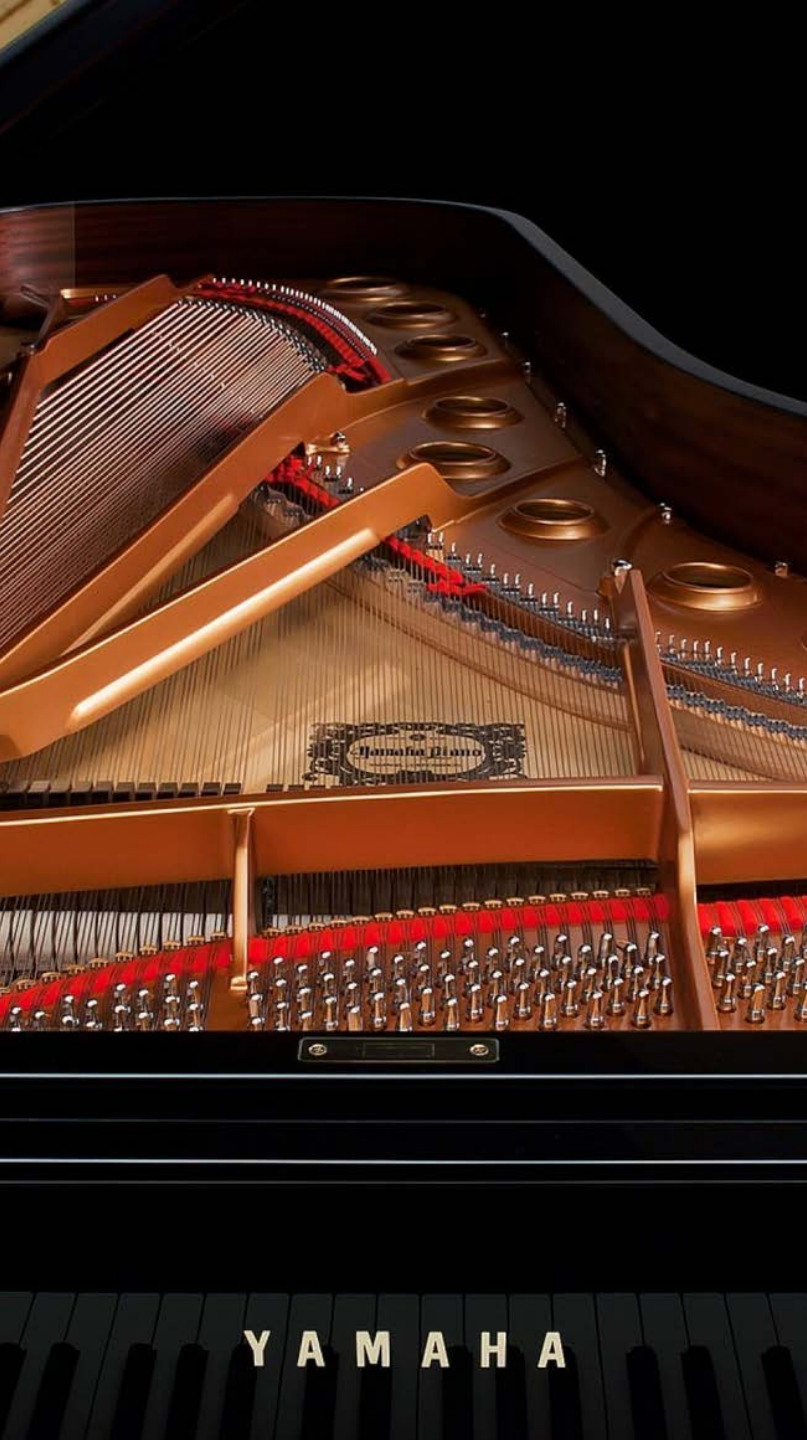
【21/3月期 通期実績】

- ・ 前回予想上回るも減収減益。主因はコロナ影響による需要減と供給不足
- ・ 売上収益は中国筆頭に回復基調も、上期減収を補いきれず減収
- ・ 事業利益は経費減が奏功
- ・ 操業停止損△23億円、コロナ影響による国内直営店、音楽教室の固定資産等の減損損失△36億円を計上

業績予想

【22/3月期 通期予想】

- ・ 依然、不確実性は高いが、売上収益は市況回復を織り込み増収を見込む
- ・ 事業利益470億円(+15%)、事業利益率11.8%(+0.9p)



1. 決算概要

業績概要

(億円)

	20/3	21/3	前期比	
			△	% ^{*2}
売上収益	4,142	3,726	△416	△10.0% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)	464 (11.2%)	407 (10.9%)	△56	△12.2%
当期利益 ^{*1}	346	266	△80	△23.1%

^{*2} △9.5%
(為替影響除く)

為替レート (円)

売上収益 (期中平均)	US\$	109	106
	EUR	121	124
利益 (決済レート)	US\$	109	106
	EUR	122	121

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

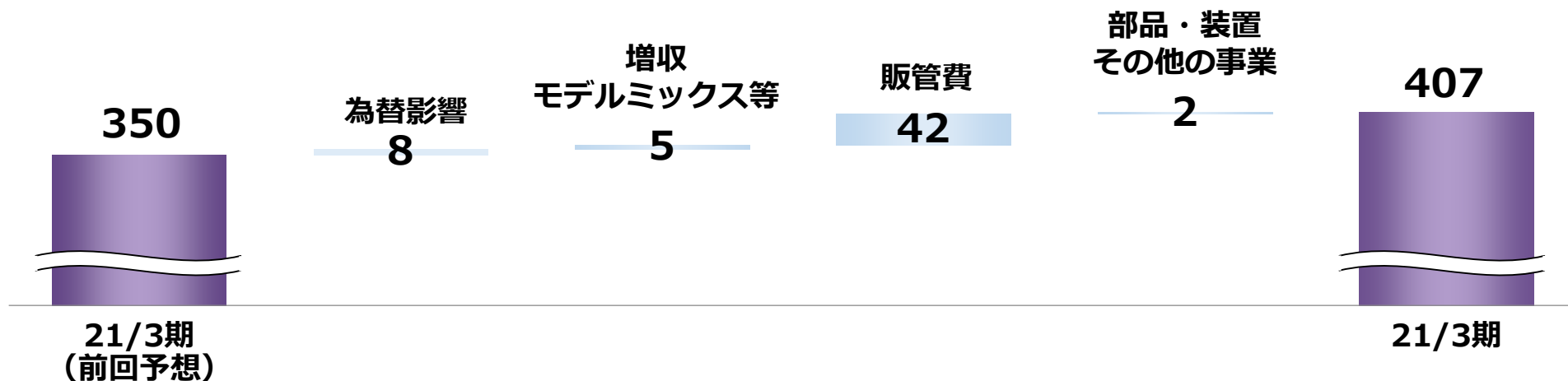
事業利益増減要因

前期との比較

(億円)



前回予想との比較



事業別業績

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,694	2,390	△304	△17
	事業利益	378	324	△53	△8
	事業利益率	14.0%	13.6%	△0.4P	
音響機器事業	売上収益	1,144	1,038	△106	△4
	事業利益	86	71	△15	2
	事業利益率	7.5%	6.8%	△0.7P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	305	298	△6	△3
	事業利益	0	12	12	△1
	事業利益率	0.1%	4.1%	+4.0P	

業績予想

(億円)

	21/3	22/3 予想	前期比	
			増減	増減率
売上収益	3,726	4,000	274	7.3% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)	407 (10.9%)	470 (11.8%)	63	15.4%
当期利益 ^{*1}	266	410	144	54.0%

*2 7.9%
(為替影響除く)

為替レート (円)

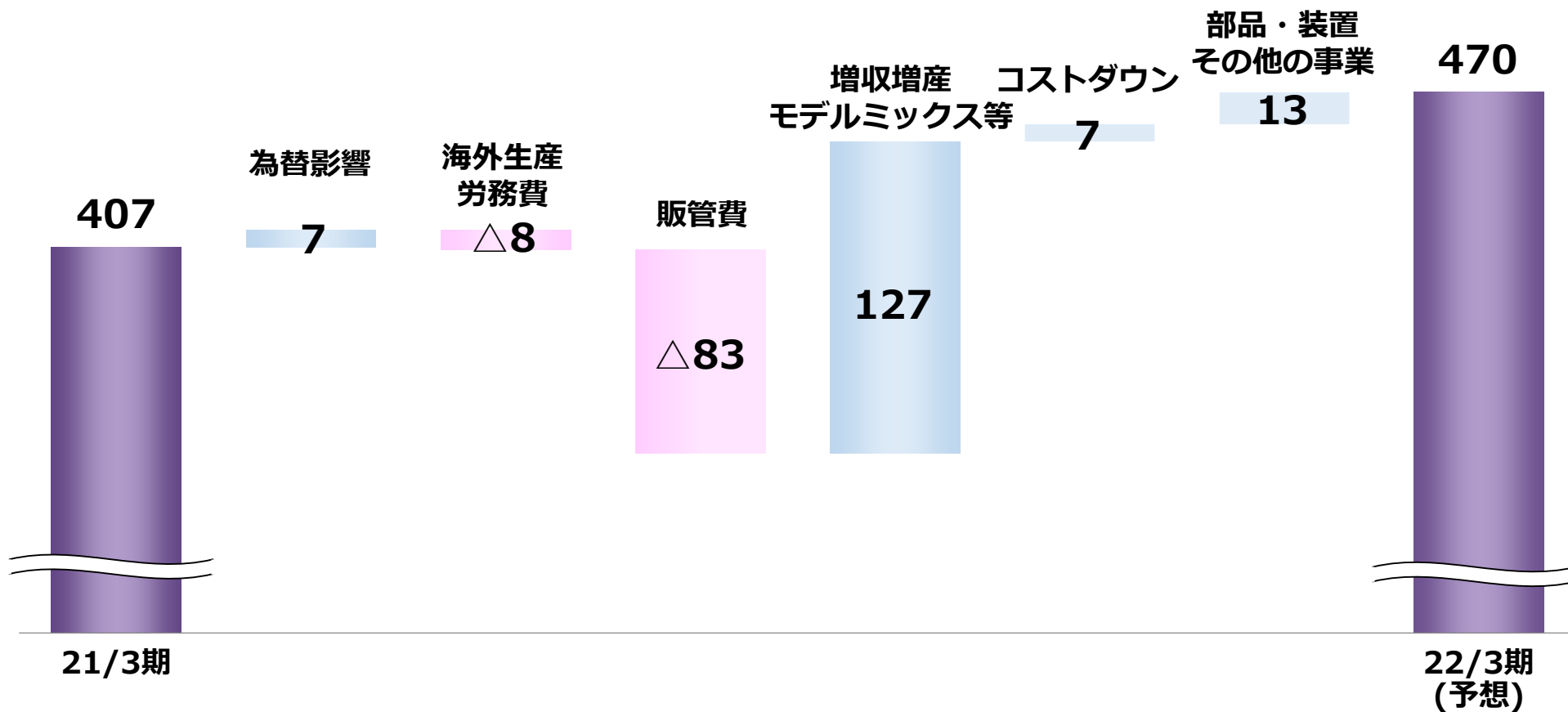
売上収益 (期中平均)	US\$	106	105
	EUR	124	125
利益 (決済レート)	US\$	106	105
	EUR	121	125

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

事業利益増減要因

前期との比較

(億円)



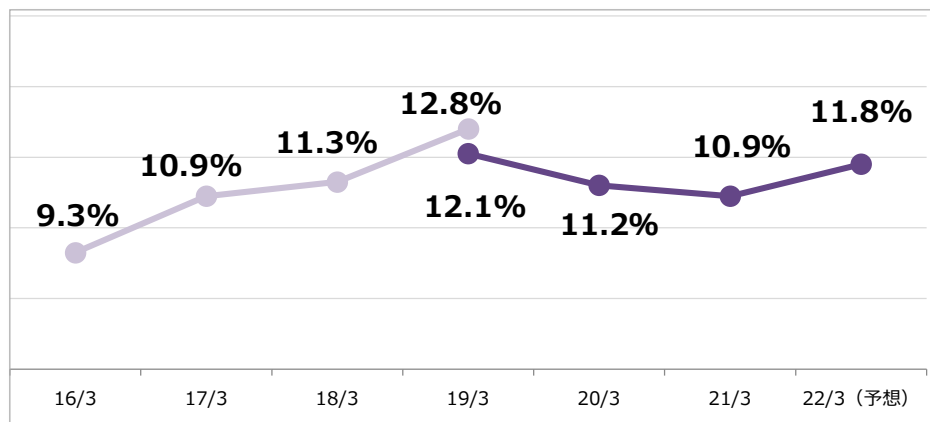
事業別業績予想

(億円)

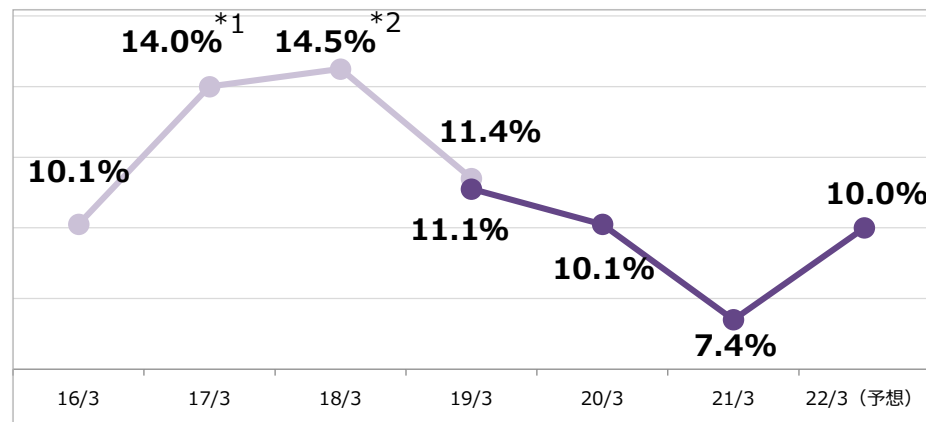
		21/3	22/3予想	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,390	2,580	190	△17
	事業利益	324	365	41	2
	事業利益率	13.6%	14.1%	+0.5P	
音響機器事業	売上収益	1,038	1,080	42	△4
	事業利益	71	80	9	5
	事業利益率	6.8%	7.4%	+0.6P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	298	340	42	△1
	事業利益	12	25	13	△0
	事業利益率	4.1%	7.4%	+3.3P	

主要経営数値

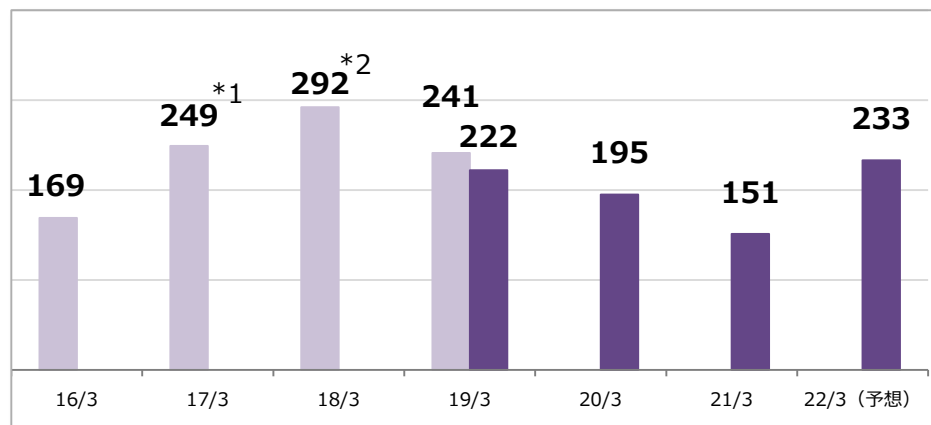
営業・事業利益率



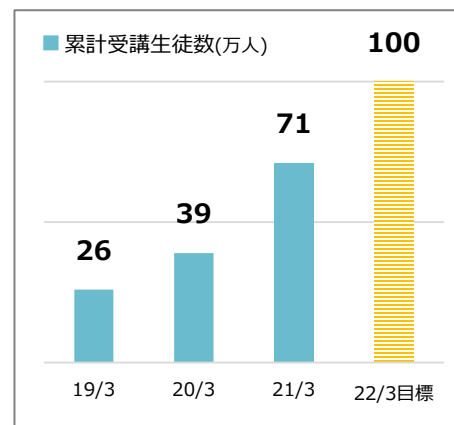
ROE



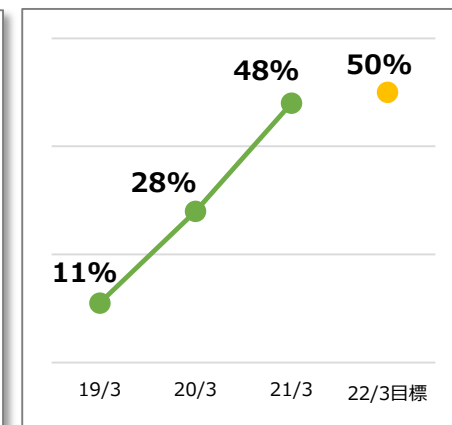
EPS (円)



【器楽教育普及活動の推移】

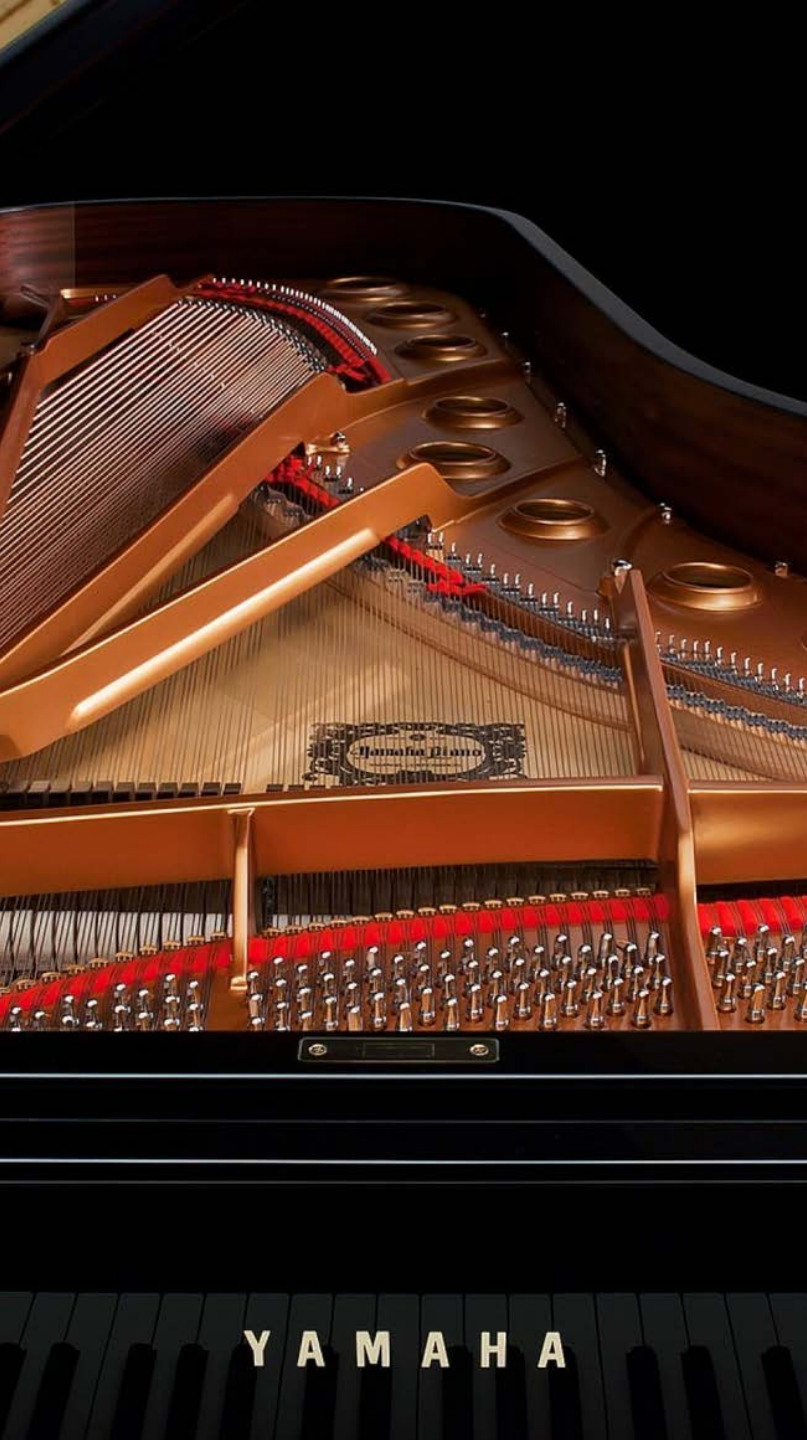


【認証木材使用率の推移】



■ 15/3期~19/3期 日本基準
■ 19/3期以降 IFRS

*1 繰延税金資産計上を含む *2 ヤマハ発動機(株)株式の一部売却による売却益を含む



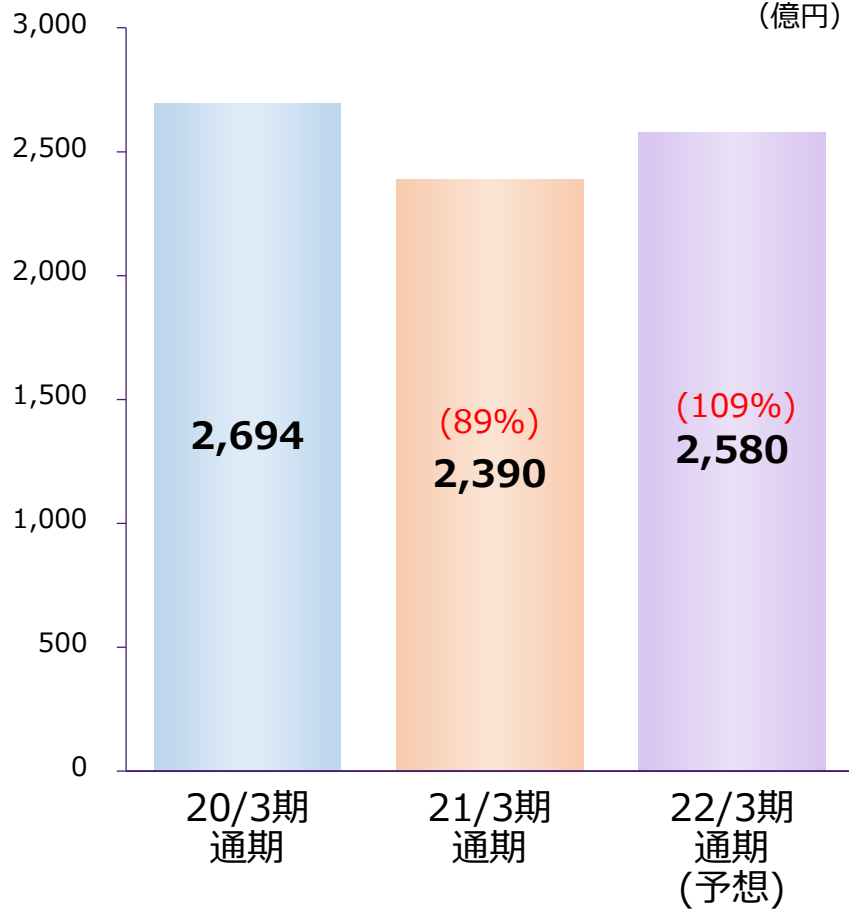
Y A M A H A

2. 事業別概要

売上収益・事業利益

売上収益

(億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前年同期比増減

[21/3期] コロナ影響、供給不足により減収減益

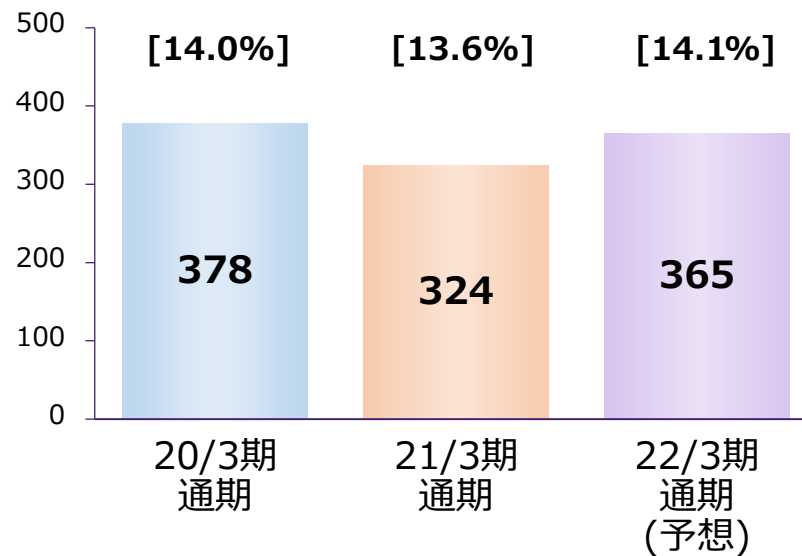
- ・ピアノ・電子楽器は中国成長回帰、各地回復基調も、供給不足もあり減収、管弦打は吹奏楽活動停滞続き減収、ギターは需要堅調で増収
- ・中国は市況回復し増収、それ以外の地域は回復途上

[22/3期] 市況回復による増収増益を見込む

- ・コロナ影響、半導体調達等に不透明感あるも、市況回復により全カテゴリー増収を予想
- ・全地域復調を予想

事業利益

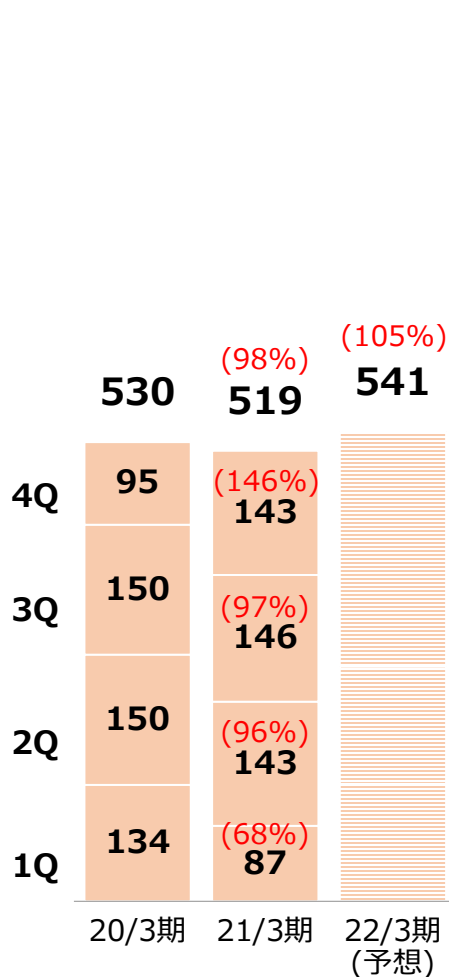
(億円)



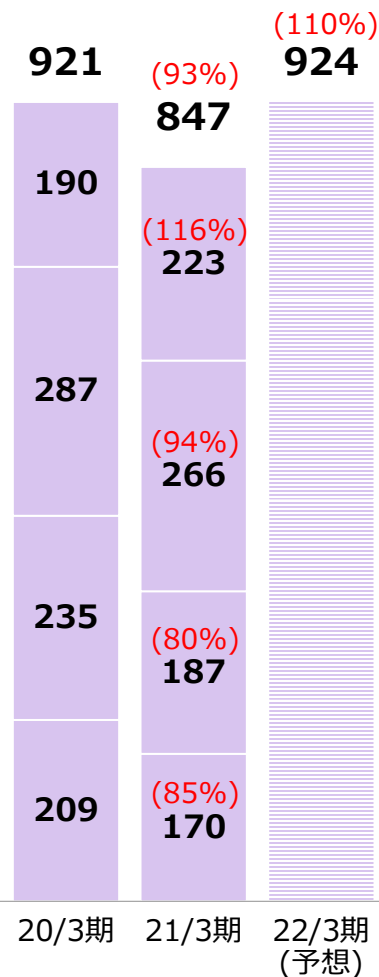
[]内は事業利益率

主要商品 販売状況

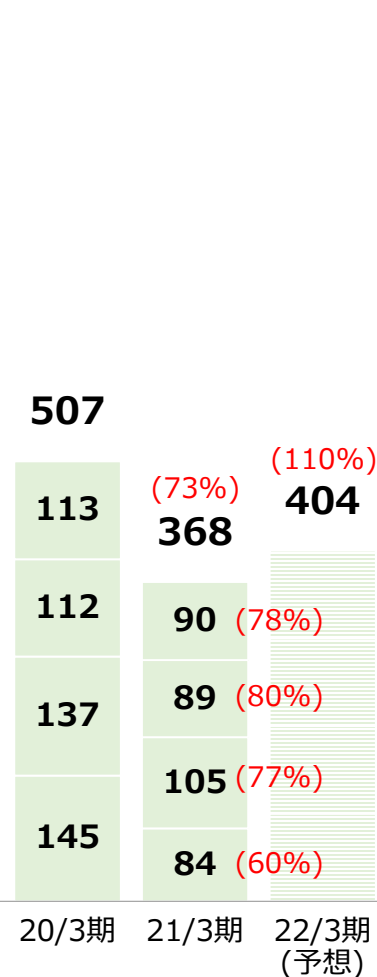
ピアノ



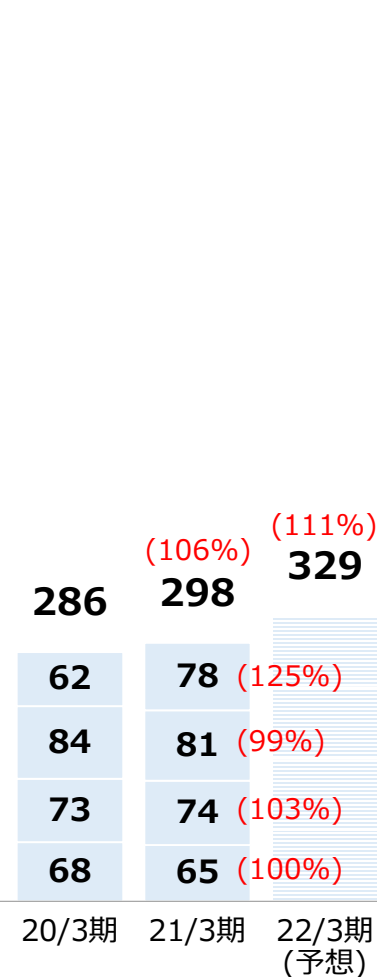
電子楽器



管弦打楽器



ギター



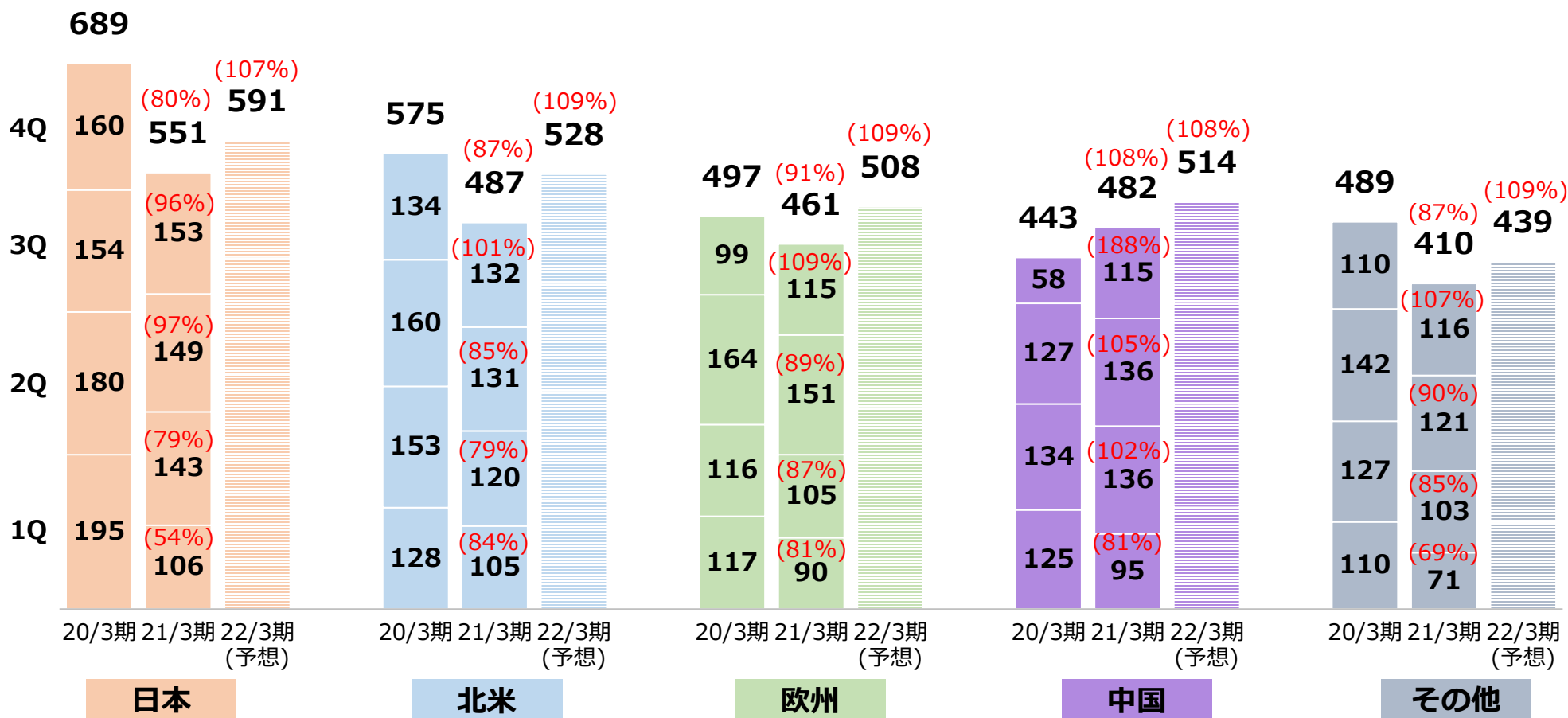
(億円)

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

*ギターは、Line 6・Ampegブランド売上を含む 12

地域別販売状況

(億円)



※ソフト、音楽教室等を含む

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

個性際立つ商品の開発

幅広い技術を融合した個性的な商品群

グランドピアノ

『C3X espressivo (エスプレッシーヴォ)』



プレミアムピアノづくりの
ノウハウを受け継いだ上位モデル

ステージキーボード

『YC88』 『YC73』



YCシリーズ初の88鍵・73鍵モデルが登場

エレキギター

『PACIFICA 612VIIX』



「PACIFICA」の上位モデルに
ラインアップを多彩に拡充する新製品が登場

Line 6

アンプ/エフェクト・プロセッサー

『POD Go Wireless』



オールインワンのアンプ/エフェクト・
プロセッサーにワイヤレスモデルが登場

Ampeg

ベースアンプ

『Rocket Bass』シリーズ



伝統ある唯一無二のサウンドとデザインに
高い機能性を備えた新ラインアップ

電子ドラム

『DTX6シリーズ』



リアルで上質なドラムサウンド
直感的な操作が可能

個性際立つ商品の開発

幅広い技術を融合した個性的な商品群

国際的に権威ある独デザイン賞
「Red Dotデザイン賞」「iFデザインアワード」受賞商品

デジタルサクソ
『YDS-150』



サクソフォンに先進のデジタル技術を融合
本格的な表現力と静音化を実現

「Red Dotデザイン賞」の最高賞である
「Best of the Best」に選出

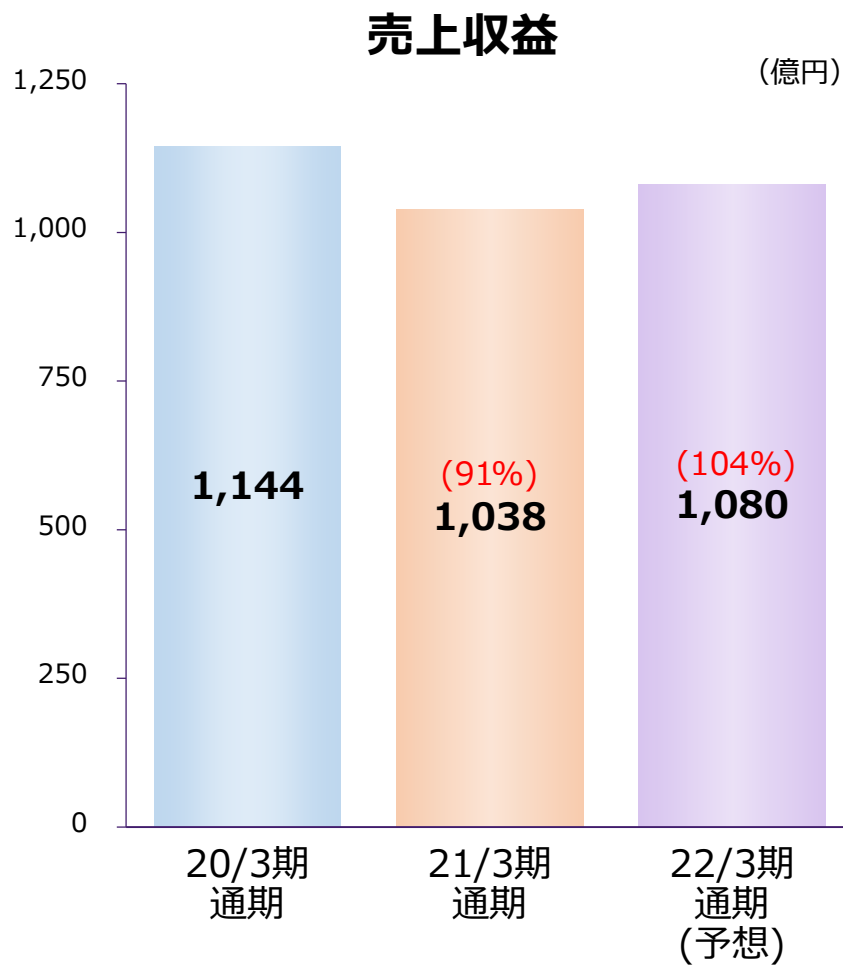
ギターアンプ
『THR-II』



ギタリストのニーズを満たすデスクトップアンプ
よりリアルなサウンドを追求し、様々な新機能を搭載

初代モデル「THR」（2012年「Red Dotデザイン賞」
2013年「iFデザインアワード」）に続く両デザイン賞受賞

売上収益・事業利益



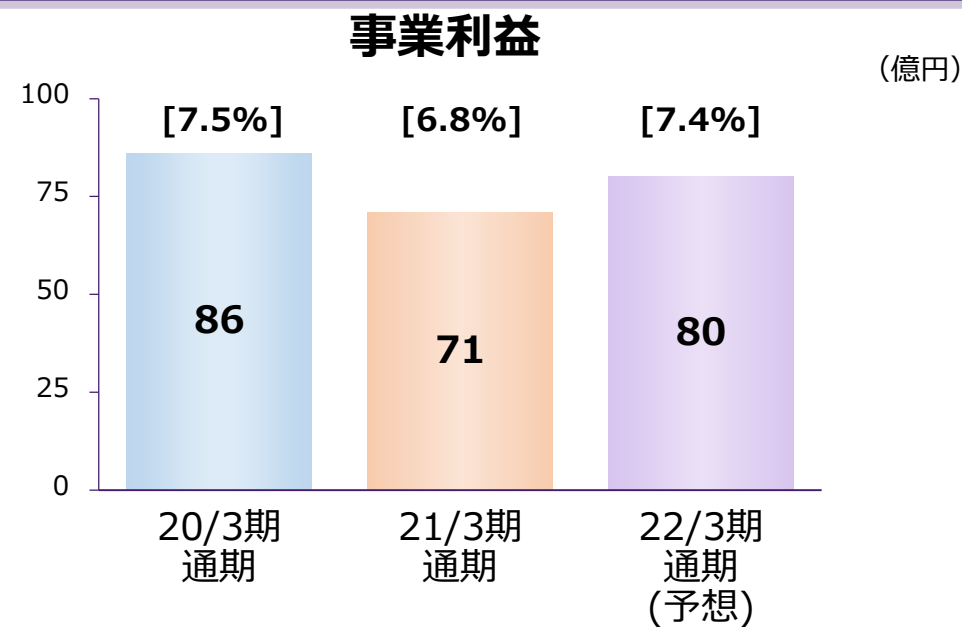
[21/3期] 在宅、遠隔需要増もPA市場低迷し減収減益

- ・AVはサウンドバー、HiFi伸長も供給不足から減収
- ・PAは音楽制作・配信需要増もライブ・設備市場の低迷続き減収
- ・ICTはテレワーク、リモート会議普及で2桁成長

[22/3期] AV堅調、PA復調、ICT成長継続を予想

- ・半導体不足リスクあるも、AVはサウンドバー、イヤフォン成長を見込む
- ・PAは設備市場の回復を予想
- ・ICTは引き続きUC*、ネットワーク関連機器の高需要を予想

*UC:会議システム



()内は為替を除いた実質ベースでの前年同期比増減

[]内は事業利益率

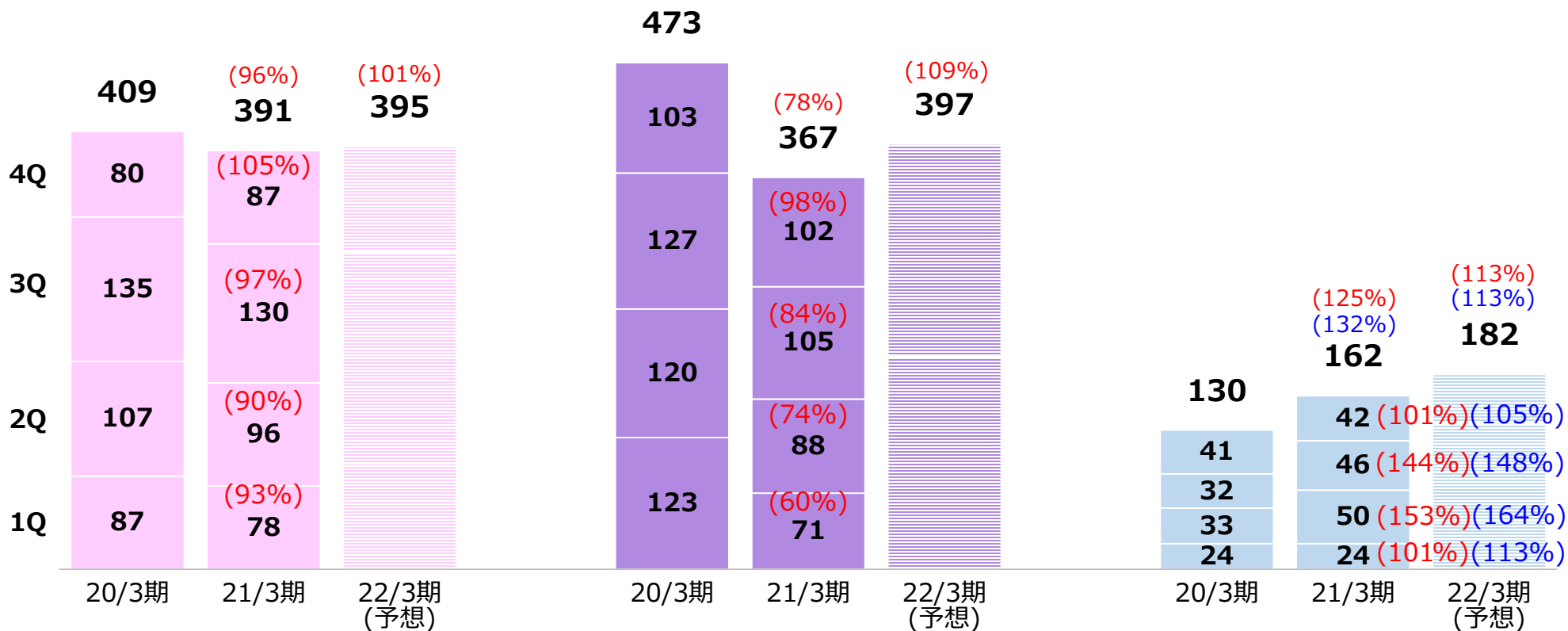
主要商品 販売状況

AV機器

PA機器

ICT機器

(億円)



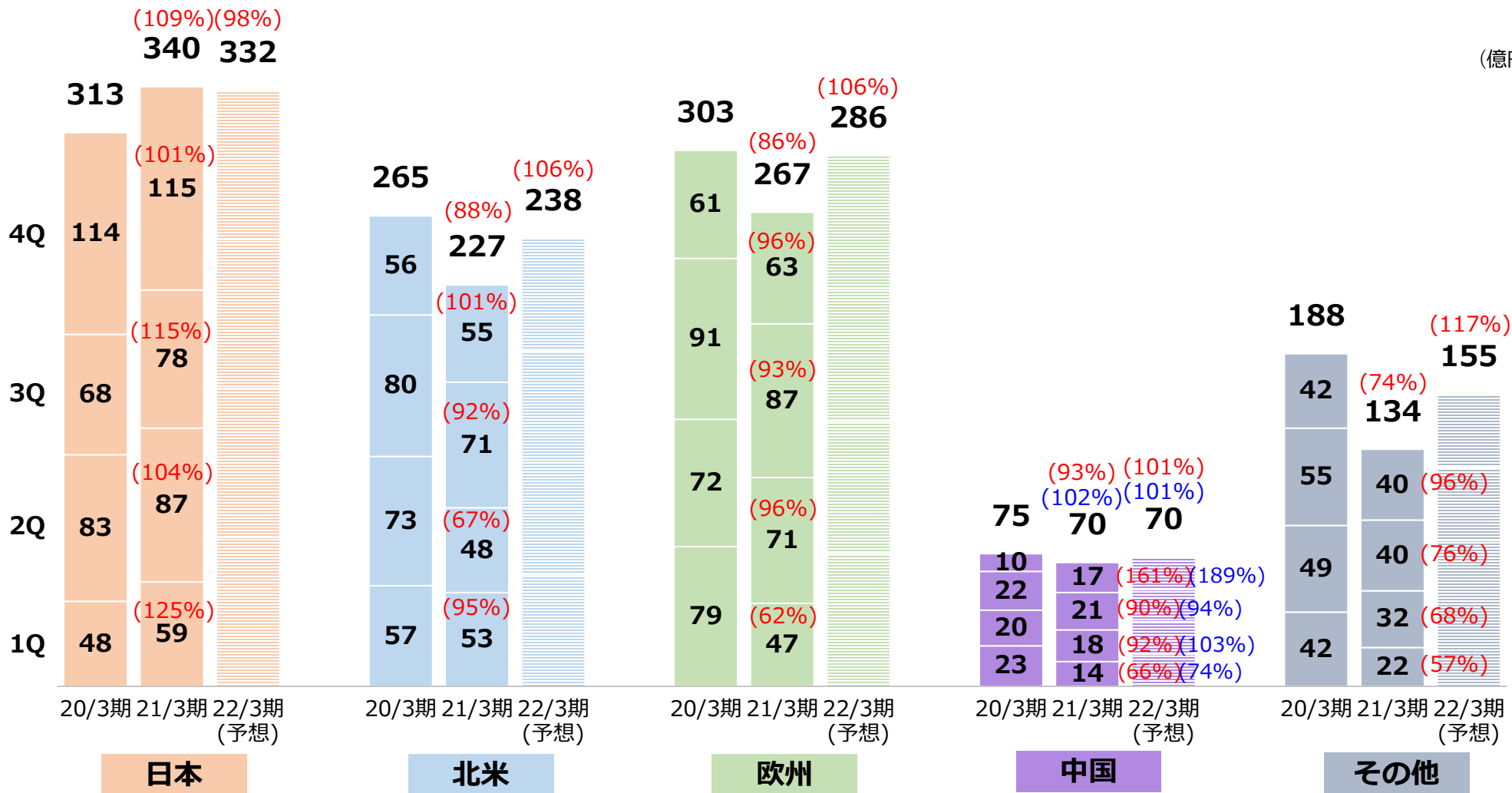
()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

※PA機器はハード売上収入のみ（設備工事を除く）

()内はOEM向けを除いた前期比増減

地域別販売状況

(億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前年同期比増減

()内はOEM向けを除いた前年同期比増減

個性際立つ商品の開発

多様なニーズに応える商品展開

完全ワイヤレスBluetooth®イヤホン
『TW-E3B』



装着性、接続安定性をさらに高めた新モデル

パワードモニタースピーカー
『MSP3A』



クリアな低域再生と軽量化を両立

サウンドバー
『SR-B20A』

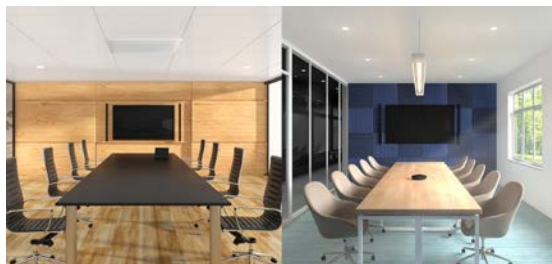


3Dサラウンド技術「DTS Virtual:X」搭載

遠隔コミュニケーションの多様化に対応

柔軟な働き方、快適なコミュニケーションを実現

遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション『ADECIA』
テーブルトップアレイマイクロフォン『RM-TT』



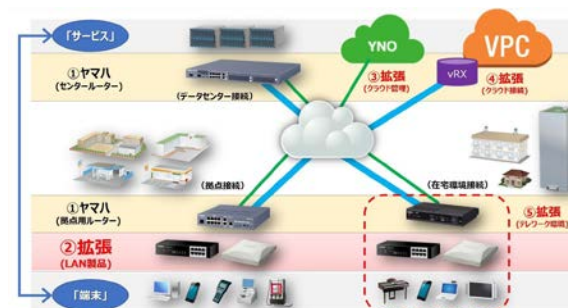
遠隔会議用スピーカーフォン『YVC-330』



個性際立つ商品の開発

「日経コンピュータ パートナー満足度調査 2021」 ネットワーク機器部門において3年連続で第1位を獲得

「日経コンピュータ 2021年2月18日号 パートナー満足度調査 2021 ネットワーク機器部門」において3年連続で第1位を獲得。当社の機器は「製品」「納期対応」などの項目で非常に高い評価。



ヤマハネットワーク製品の拡大

ギガアクセスVPNルーター
『RTX1220』



UTMアプライアンス
『UTX100』 『UTX200』



シンプルL2 スイッチ
『SWX2110シリーズ』



インテリジェントL2スイッチ
スタンダードL3スイッチ

『SWX2320-16MT』 『SWX3220-16MT』
『SWX2322P-16MT』 『SWX3220-16MTs』



ヤマハネットワーク技術者認定試験 (Yamaha Certified Network Engineer)



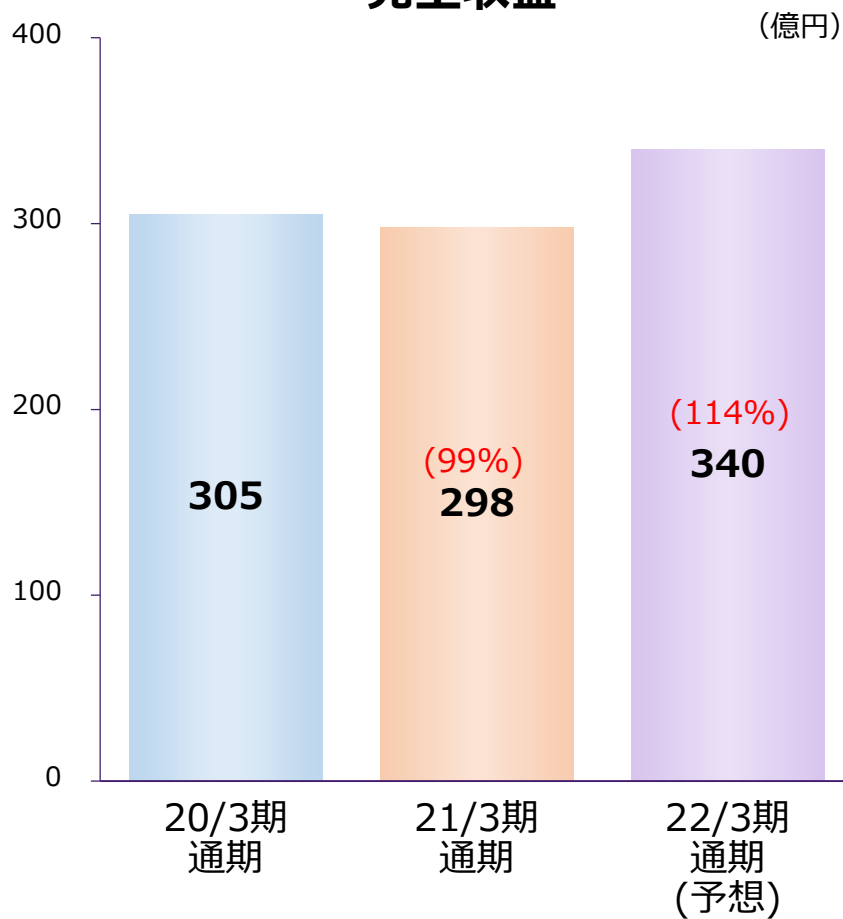
主役は、ネットワークエンジニア
-Yamaha Certified Network Engineer-



公式認定制度でネットワークエンジニアの
知識・技術向上をサポート (2021年6月開始)

売上収益・事業利益

売上収益



()内は為替を除いた実質ベースでの前年同期比増減

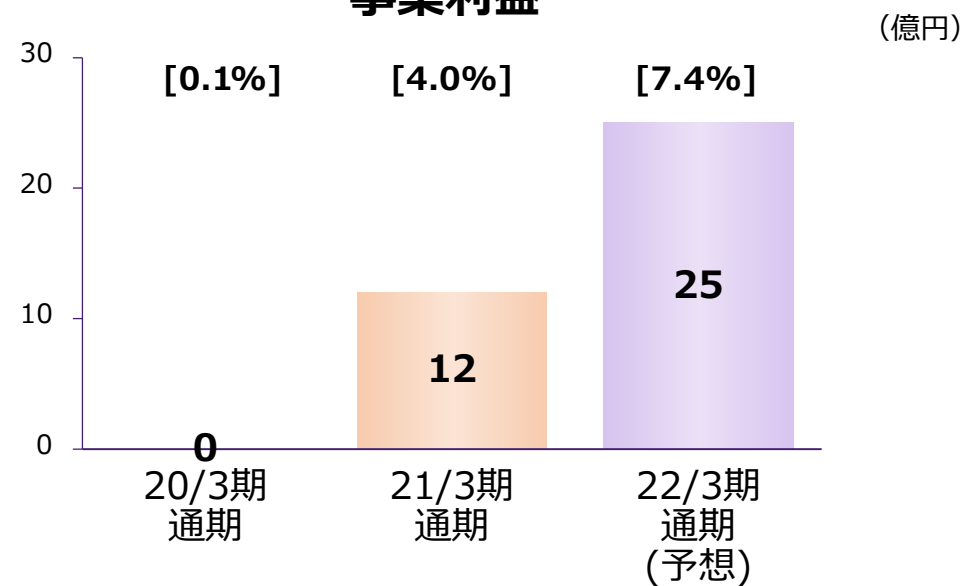
[21/3期]

- ・電子デバイスは減収も、自動車用内装部品、FA機器好調で増益
- ・車載向けヤマハブランドオーディオ出荷開始

[22/3期]

- ・ヤマハブランドオーディオの拡大を見込む
- ・自動車用内装部品も引き続き需要堅調を予想

事業利益



[]内は事業利益率

個性際立つ商品の開発

成長市場である車内のトータルソリューション領域へシフト

『車載向けヤマハブランドオーディオシステム』の市場認知が広がる
～2020年11月より量産出荷を開始～

吉利グループ EV新ブランド「ZEEKR」



ヤマハ搭載車種「ZEEKR001」



ZEEKR001に搭載される
ヤマハブランドオーディオ

上海汽車グループMG 新型「MG5」

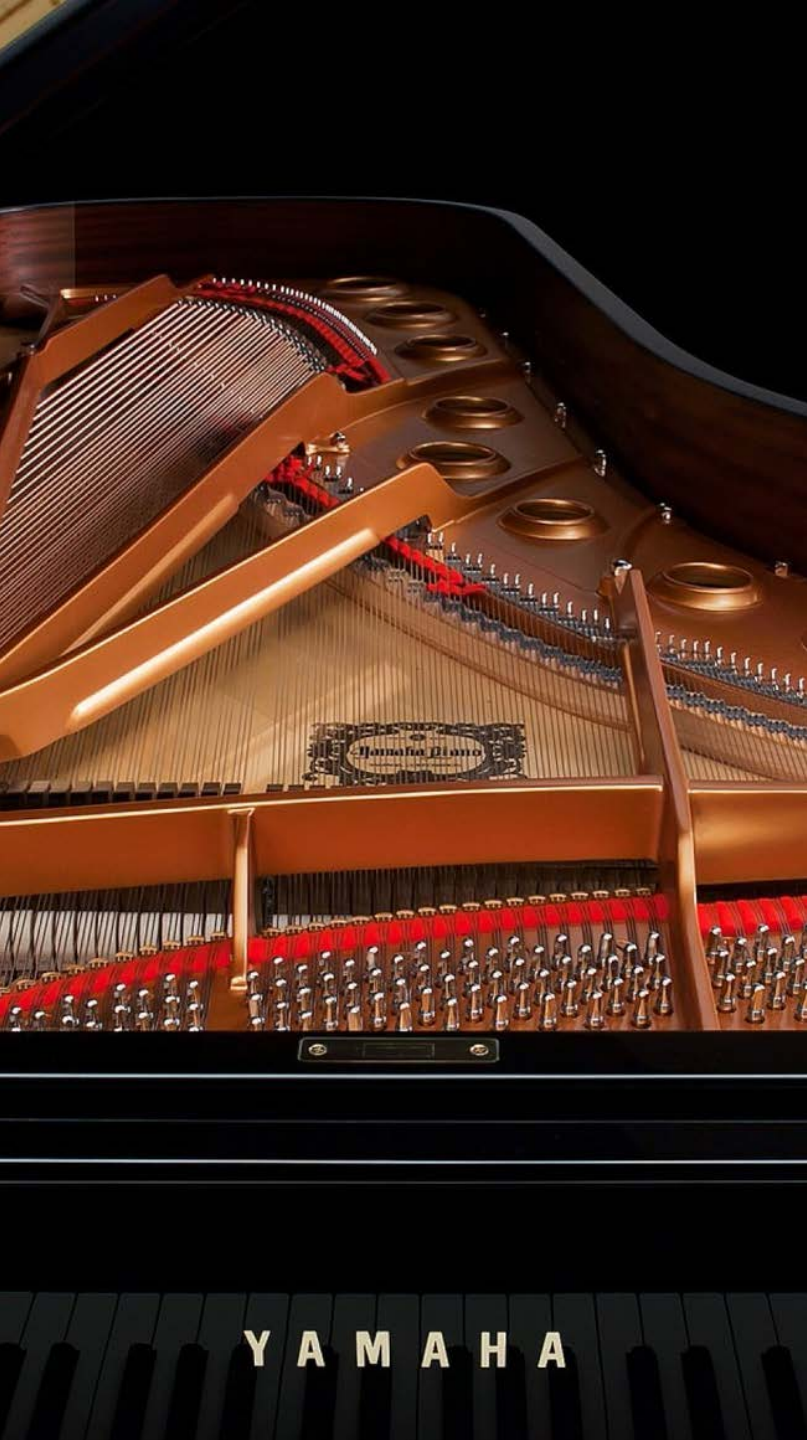


搭載されている新型「MG5」



ヤマハロゴがデザインされた
ドアスピーカーグリル

ヤマハの車載向けオーディオシステムでは、楽器が引き出す音楽の魅力を余すことなく届けるべく、スピーカー、アンプ、信号処理のすべてにおいて楽器の再現性にこだわります。そして、車の個性やコンセプト、ユーザーへ訴求する価値観と一体となったサウンドを専用設計することで、その車にふさわしい理想の音を実現します。音楽の興奮や喜びを車の中の全員が最高のレベルで楽しむことができる音楽リスニング体験のみならず、車室内のサウンドに関する多様なソリューションも展開し、ドライビング体験をサウンドで彩ります。当社は今後、『車載向けヤマハブランドオーディオ』の展開を国内外に向けてさらに拡充し、感動体験を提供してまいります。



3. その他財務数値

貸借対照表

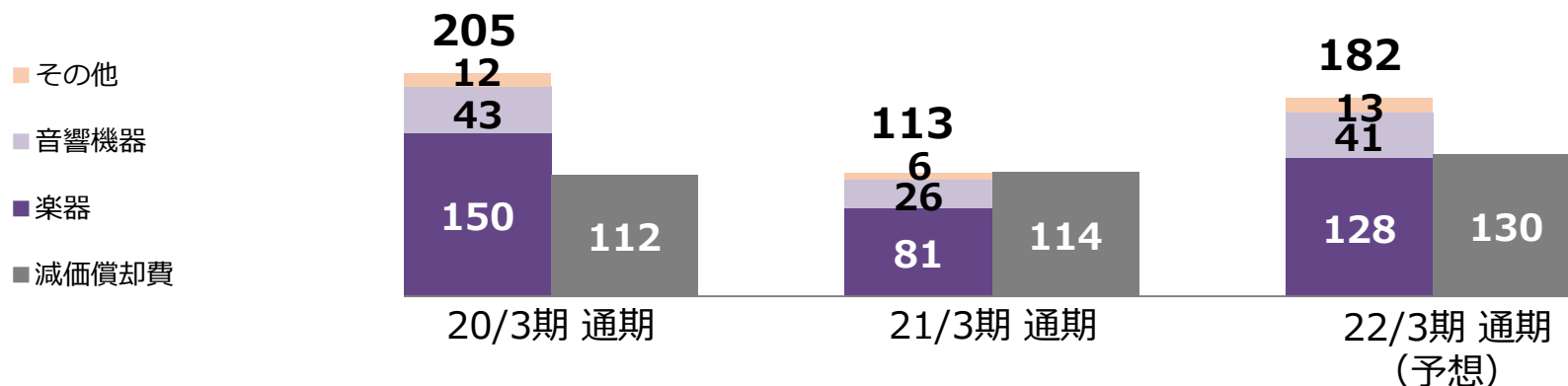
(億円)

	20/3末	21/3末	増減	22/3末 (予想)
現金及び現金同等物	927	1,293	367	1,484
営業債権他	581	573	△7	607
その他金融資産	129	86	△44	88
棚卸資産	1,001	968	△33	1,010
他流動資産	65	91	26	79
非流動資産	2,038	2,565	527	2,591
資産計	4,740	5,576	836	5,859
流動負債	991	1,009	17	1,001
非流動負債	484	598	114	594
資本計	3,265	3,969	705	4,264
負債及び資本計	4,740	5,576	836	5,859

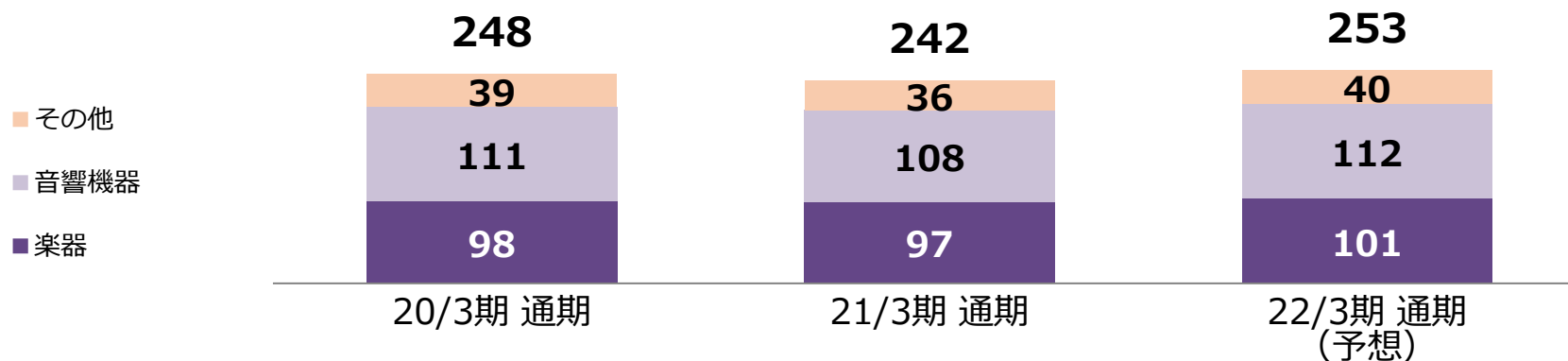
設備投資額・減価償却費/研究開発費

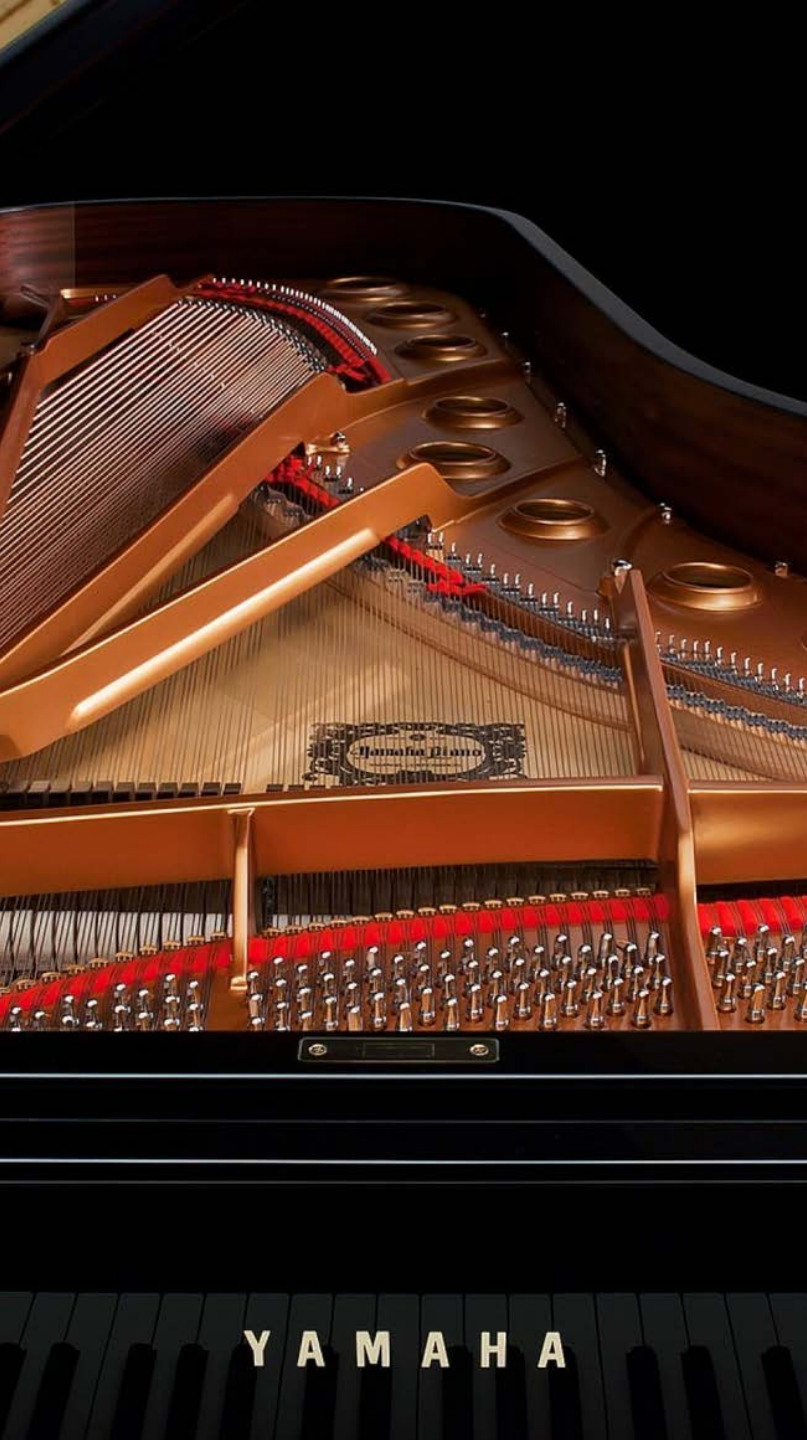
設備投資額/減価償却費

(億円)



研究開発費





4. ESGの取り組み

ESGトピック

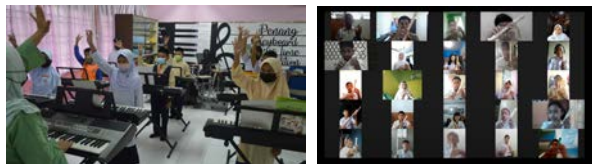
事業を通じ、音楽文化・社会の持続的発展に貢献する

文化

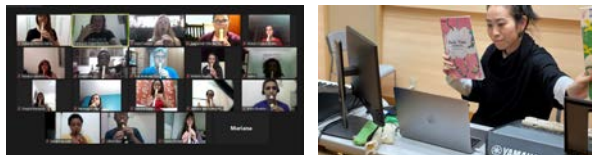
音楽文化の サステナビリティに貢献

■ 新興国での器楽教育普及 6カ国 累計71万人

(22年3月期末目標 7カ国 累計100万人)



コロナ禍における活動風景



オンラインでの講師研修

社会

ともに働く人々の 多様性、働きがい向上

■ 健康経営優良法人2021認定



■ PRIDE指標2020

ゴールド2年連続受賞



■ 階層・部門を越えた対話拡充

社長リモート職場訪問

- ・年33回実施
- ・延べ400名参加



環境

自然との共生

■ 持続可能な木材利用

認証木材採用率 48%
(22年3月期末目標 50%)

■ 環境配慮製品の開発



エコプロダクツ 中計累計75モデル
(22年3月期末目標 中計累計120モデル)

■ 温室効果ガス排出量削減

本社事業所の購入電力100%
再生可能エネルギー化達成
(2021年4月)

CDP「気候変動レポート」で
「A-」の評価を獲得



その他

■ SoundUD : スマホアプリ「おもてなしガイド*」、 「Remote Cheerer」など幅広い取り組みが進捗



*文化庁「文化芸術収益力強化事業」を受託、国内20の文化芸術団体と共に実証実験を実施(2021年2月)

トピック

経済産業省が定める
「DX認定取得事業者」に選定



「2020年日経優秀製品・サービス賞」において
リモート合奏サービス「SYNCRROOM」が「最優秀賞」を受賞
(26年ぶり3度目の最優秀賞受賞)

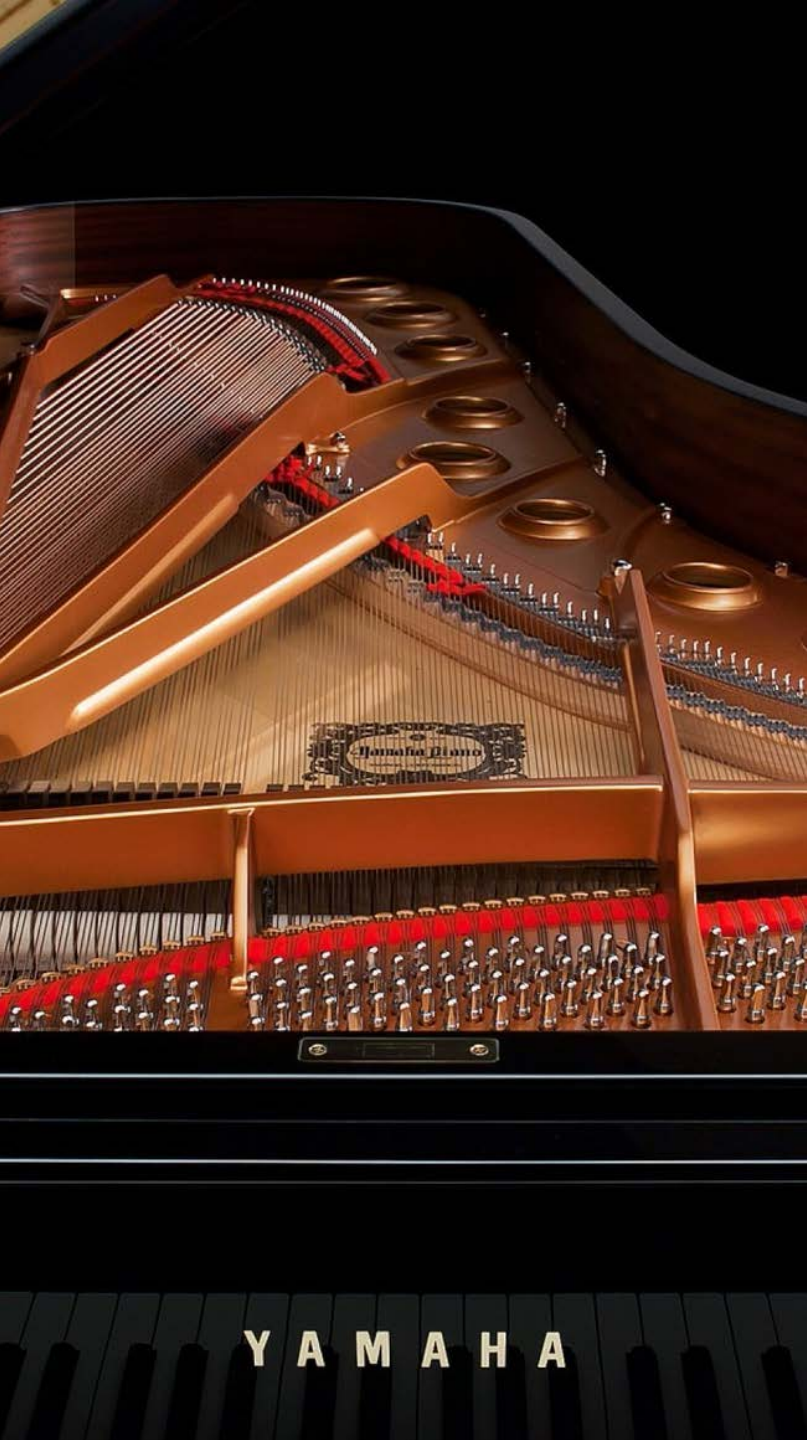


「ヤマハグループ統合報告書2020」が
第23回日経アニュアルレポートアワード「優秀賞」受賞
GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」に選定



歌声合成技術「VOCALOID」による
“新たな創造活動の創生とエコシステム構築”が、「第9回
技術経営・イノベーション大賞」で「選考委員特別賞」を受賞





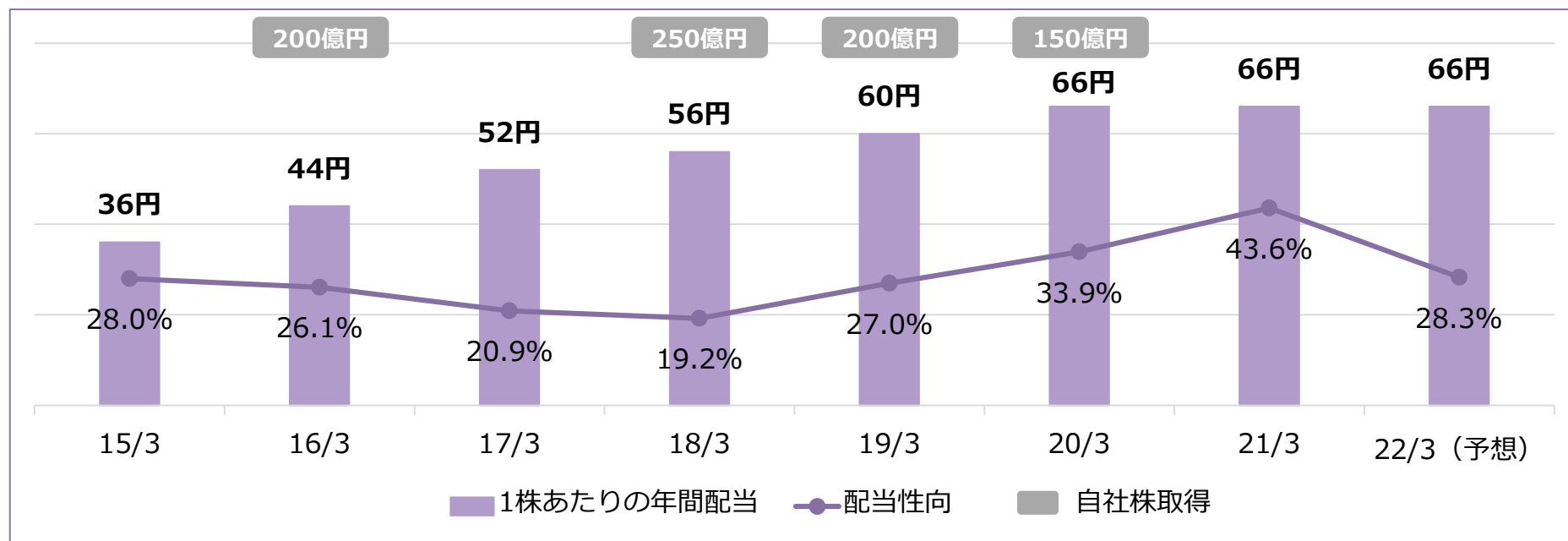
Y A M A H A

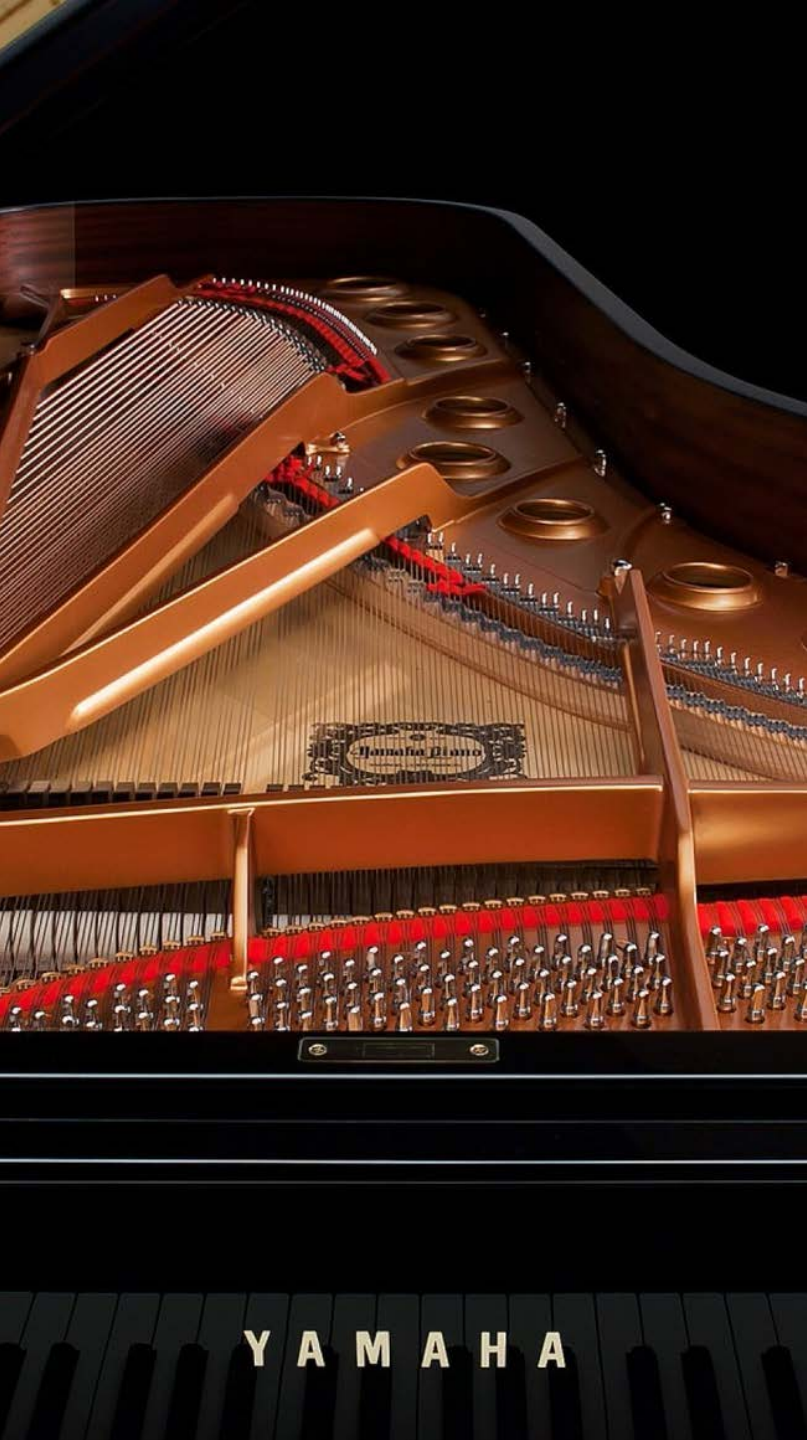
5. 株主還元

配当・配当性向

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3 ^{*3}	20/3	21/3	22/3 (予想)
1株あたりの 年間配当	36円	44円	52円	56円	60円	66円	66円	66円
配当性向	28.0%	26.1%	20.9% ^{*1}	19.2% ^{*2}	27.0%	33.9%	43.6%	28.3%

*1 繰延税金資産計上を含む *2 ヤマハ発動機(株)株式の一部売却による売却益を含む *3 19/3以降はIFRS





付属資料

Y A M A H A

2021年3月期 4Q業績概要

(億円)

		20/3	21/3	前期比	
売上収益		916	1,003	87	9.5% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)		40 (4.3%)	117 (11.6%)	77	195.4%
当期利益 ^{*1}		19	90	71	372.6%
為替レート (円)					^{*2} 8.3% (為替影響除く)
売上収益 (期中平均)	US\$	109	106		
	EUR	120	128		
利益 (決済レート)	US\$	109	105		
	EUR	120	126		

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

2021年3月期 4Q事業別実績

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	560	631	70	9
	事業利益	29	94	65	5
	事業利益率	5.3%	14.9%	+9.7P	
音響機器事業	売上収益	282	290	8	4
	事業利益	14	20	6	3
	事業利益率	5.1%	6.9%	+1.8P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	74	83	9	△1
	事業利益	△4	3	7	△0
	事業利益率	△5.8%	3.3%	+9.0P	

通期 その他収支等

(億円)

		20/3	21/3	22/3 (予想)
事業利益		464	407	470
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	3	△1	47
	その他	△33	△56	3
	計	△30	△57	50
営業利益		433	350	520
金融収支計	受取配当金	37	27	36
	その他	2	△6	△1
	計	39	21	35
税前利益		472	371	555
法人所得税費用		125	104	144
非支配株主利益		1	1	1
当期利益*		346	266	410

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。